hp UPS
（無停電電源装置）
T1500 XRモデル

インストレーション インストラクション

インストールを開始する前に
必ずこの説明をお読みください。

本書の内容につきましては万全を期しておりますが、本書中の技術的あるいは校正上の誤り、省略に対して、責任を負いかねますのでご了承ください。本書の内容は、そのままの状態で提供されるもので、いかなる保証も含みません。本書の内容は、将来予告なしに変更されることがあります。HP製品に対する保証については、当該製品に付属の限定保証書に記載されています。本書のいかなる内容も、新たな保証を追加するものではありません。

本製品は、日本国内で使用するための仕様になっており、日本国外で使用される場合は、仕様の変更を必要とすることがあります。

本書に掲載されている製品情報には、日本国内で販売されていないものも含まれている場合があります。

HP UPS（無停電電源装置）T1500 XRモデル
インストレーション インストラクション

第2版（2002年8月）
製品番号 215396-022

概要

このインストレーション インストラクションでは、UPS（無停電電源装置）のインストール手順について説明します。UPSの詳細については、パワー プロダクト ドキュメンテーションCDに収録されているUPSのユーザ ガイドを参照してください。

安全に使用していただくために

同梱の『安全に使用していただくために』をよく読んでから、製品のインストールを開始してください。

警告： 高電圧による感電を防止するために、オプションのインストール、この製品の定期点検および保守については、AC電源製品の取り扱い手順、注意事項、および危険性を熟知している専門の担当者が行ってください。

警告： 漏電による感電を防止するために、次の点に注意してください。

- 商用電源から切り離されているUPSは動作させないでください。
- UPSを商用電源から切り離す前に、保護されている装置をUPSから切り離してください。
- バッテリをテストする場合は、UPSをコンセントから外さずに、テスト/アラーム リセット ボタンを使用してください。UPSの操作の詳細については、UPSのユーザ ガイドを参照してください。

規定準拠識別番号

規定に準拠していることの証明と識別のために、UPSモデルにはシリーズ番号が割り当てられています。また、このUPSを識別できる規定準拠ラベルは、UPS装置の背面に貼付されています。この製品の認定情報を請求する場合は、次のシリーズ番号を参照してください。

- T1500 XRのシリーズ番号: EO3018j

注： ご使用になっている装置にVCCIマークが付いていましたら、次の説明文をお読みください。

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。

取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

VCCIマークが付いていない場合には、次の点にご注意ください。

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスA情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

重量 — T1500 XR

警告: 完全に組み立てられた場合のUPSの重量は24.9kgです。けがや装置の損傷を防ぐために、次の点に注意してください。

24.9kg
54.8lb

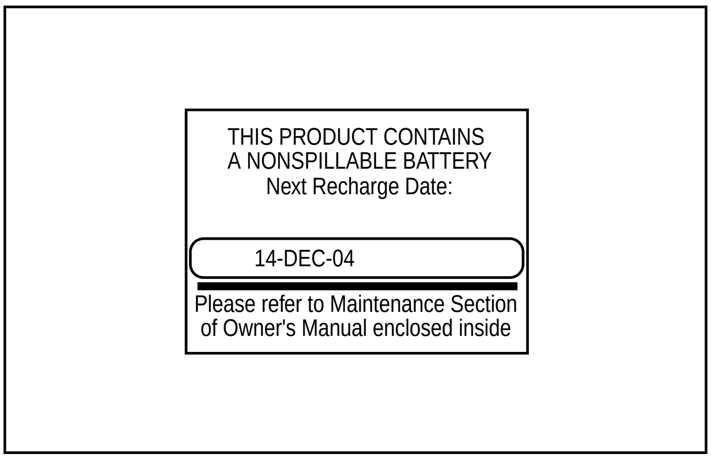
- **各地域で定められた重量のある装置の安全な取り扱いに関する規定に従ってください。**
- **UPSの設置および取り外し作業中には、必ず、適切な人数で持ち上げたり固定する作業を補助してください。**

バッテリ再充電日付をチェックする

UPSを開梱する前に、バッテリ再充電日付ラベルに示された再充電日付をチェックしてください。このラベルは、梱包箱に貼付されています。

重要: 再充電日付を過ぎているバッテリを使用しないでください。バッテリを再充電せずにバッテリ再充電日付ラベルに示されている日付を過ぎた場合は、HPのサービス窓口にご連絡ください。

注: 次の図のラベルに示された日付は例に過ぎません。梱包箱のラベルに示された日付は、これと異なる場合があります。



キットの内容

マニュアル

- 『規定に関するご注意』ガイド
- 『安全に使用していただくために』ガイド
- パワー プロダクト ドキュメンテーションCD
- Rack and Power Management Pack CD
- 本書

UPS

- UPS本体
- フロント ベゼル

ケーブル

- T1500 XRモデルには、NEMA 5-20プラグ付きの取り外しのできない1.83m（6フィート）の入力電源コードと1.83m（6フィート）のUPS/コンピュータ インタフェース ケーブル（201092-001）が付属しています。

装置をUPSの出力コンセントに接続するには、UPSに付属のジャンパ コードを使用します。装置の背面にあるIEC-320-C14コンセントを使用して、装置の電源コードを商用電源に接続します。

注: すべてのモデルには、コンピュータ インタフェース ケーブルが付属しています。コンピュータ インタフェース ケーブルは通常の操作では必要ありません。パワー マネジメント ソフトウェアを使用してUPSを管理する場合は、インタフェース ケーブルをUPSの通信ポートとホスト コンピュータのシリアル ポートに接続してください。

電気要件

UPS T1500 XRには、定格20Aの専用（非共有）分岐回路が必要です。

警告: 火災や感電を防止するために、UPSは、温度と湿度が制御された、屋内の、ほこりなどによる導電性の汚染のない環境にインストールしてください。

重要: ご使用のモデルに適合する電源コードがUPSに付属していない場合は、HPのサービス窓口に連絡して、適切な電源コードを入手してください。

UPSを開梱する

安全のため適切なガイドラインに従って、キットの内容を梱包箱から慎重に取り出してください。すべてのコンポーネントが揃っていることを確認してください。

UPSの組み立てを完了する

重要: 以下の作業を安全に行うために、UPSの電源を切ってください。

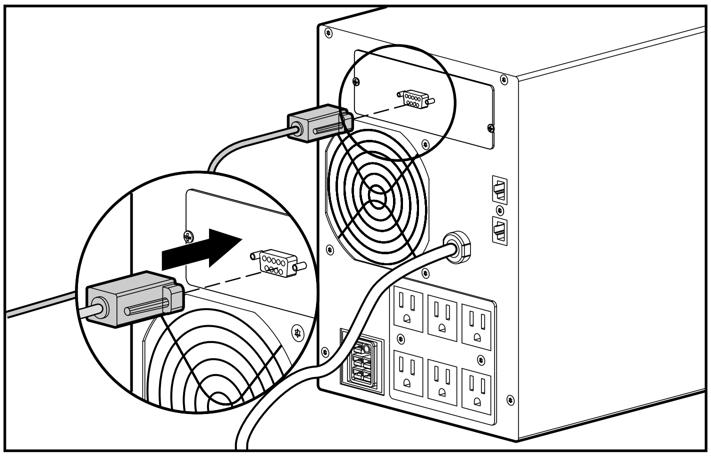
通信ポートに接続する

UPSには、UPSがホスト コンピュータとデータを交換するための通信ポートが装備されています。

重要: パワー マネジメント ソフトウェアでは、通信ポートをホスト コンピュータに正しく接続する必要があります。

UPS/コンピュータ インタフェース ケーブル（同梱）を、UPSの通信ポートから、ホスト コンピュータの適切な通信ポートに接続してください。

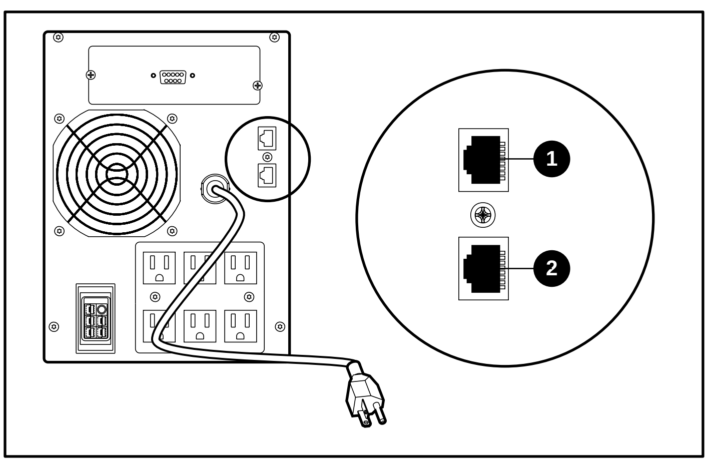
注意: 通信ポートとホスト コンピュータの接続には、UPSに同梱されている指定されたケーブルのみを使用してください。



サージ プロテクタに接続する

サージ プロテクタによりUPSは通信装置をサージから保護できます。

重要: 装置の損傷を防止するために、サージ プロテクタに電話回線を接続する場合は、デジタルPBX回線ではなく、標準の電話回線を接続してください。



参照番号	説明
1	サージ プロテクタ"OUT"ジャック
2	サージ プロテクタ"IN"ジャック

UPSを商用電源に接続する

UPSをアース付きの商用電源コンセントに接続してください。

警告: 感電や装置の損傷を防止するために、次の点に注意してください。

- **入力電源コードは、装置の近くに設置された、容易にアクセスできるアース付き電源コンセントに差し込んでください。**
- **入力電源コードのアース付きプラグは無効にしないでください。アース付きプラグは安全上重要な機能です。**
- **延長コードを使用しないでください。**

装置をUPSに接続する

装置を接続する前に、装置の定格がUPSの容量を超えないことを確認して、UPSが過負荷にならないことを確認してください。すべてのロード セグメント間で、接続する装置を均等に分散してください。

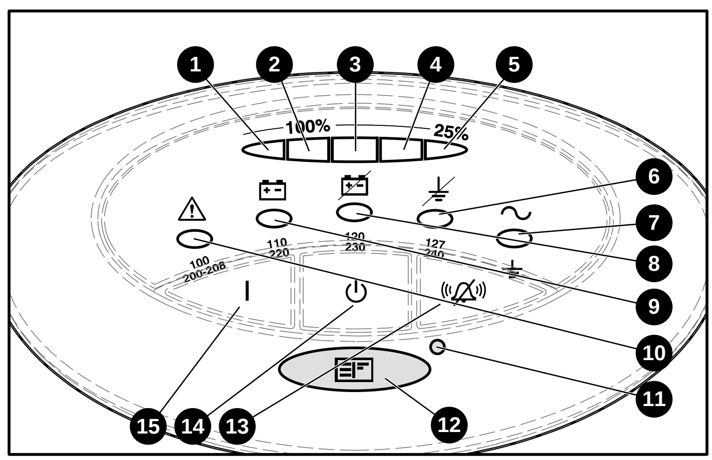
UPSが過負荷にならないことを確認した後は、装置の電源コードを、UPSの適切な出力ソケットに接続してください。

注意: レーザ プリンタはUPSに接続しないでください。このタイプのプリンタには瞬間的に大きな電流が流れるため、UPSが過負荷になる場合があります。

UPSの電源を投入する

UPSの電源を投入するには、以下の手順に従ってください。

1. 入力電源コードを使用して、UPSを商用電源に接続します。UPSは、自動的にセルフテストを開始します。セルフテストが正常に完了すると、UPSはスタンバイ モードになります。
2. フロント パネルのLEDディスプレイをチェックします。商用電源LEDは、緑で点滅しますが、電源はロード セグメントに供給されません。



1	過負荷LED	9	バッテリ動作
2	76～100%負荷	10	一般アラーム
3	51～75%負荷	11	設定モード オンLED
4	26～50%負荷	12	設定ボタン
5	0～25%負荷	13	テスト/アラーム リセット ボタン
6	配線チェック インジケータ	14	スタンバイ ボタン
7	商用電源LED	15	オン ボタン
8	不良バッテリ/ロー バッテリ		

注: 設定モード オンLED、設定ボタン、および電圧設定パネルには、フロント ベゼルを取り外さないとアクセスできません。

- 商用電源LED（7）
  - — 赤色で点滅: 商用電源の入力電圧が、設定されている+20～-30%の定格範囲を超えています。
  - — 緑色: 商用電源の電圧が供給され出力がオンになっています。または商用電源の電圧が設定されている電圧範囲に戻りました（UPSは商用電源を供給しておりアラーム音はリセットされているはずです）。
  - — 緑色で点滅: 商用電源の電圧が供給されていますが、出力はオフです。UPSはスタンバイ モードになっています。必要に応じて、バッテリが充電されます。
- 過負荷LED（1）：赤色 - UPSの負荷が使用できる最大電力を超えています。
- 76～100%負荷LED（2）：緑色 - UPSの負荷は、最大電力の約76～100%の範囲にあります。
- 51～75%負荷LED（3）：緑色 - UPSの負荷は、最大電力の約51～75%の範囲にあります。
- 26～50%負荷LED（4）：緑色 - UPSの負荷は、最大電力の約26～50%の範囲にあります。
- 0～25%負荷LED（5）：緑色 - UPSの負荷は、最大電力の約0～25%の範囲にあります。

フロント パネルのLEDディスプレイおよびUPSの設定手順の詳細については、UPSのユーザ ガイドを参照してください。

重要: フロント パネルのいずれかのLEDが赤になっている場合（アラーム条件を表しています）は、テスト/アラーム リセット ボタンを押して、赤のLEDを消してください。それでも赤のLEDが消えない場合、UPSのユーザ ガイドで詳細を参照してください。

バッテリを充電する

UPSをスタンバイ モードにして、バッテリを充電してから、UPSの使用を開始してください。

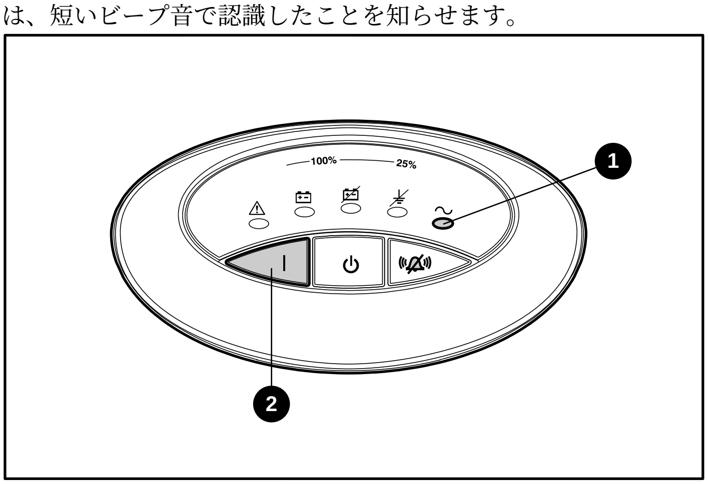
重要: バッテリ パックの充電時間は次のとおりです。

- **3時間以内に容量の90%。**
- **24時間以内に容量の100%。**

装置にバックアップ電源を供給する前に、最低24時間充電してください。

UPSを動作モードにする

オン ボタン（2）を押し続けます。商用電源LED（1）が緑で点灯し、UPSの出力ソケットで電源を使用できることを示します。UPSは、短いビープ音で認識したことを知らせます。



システムをシャットダウンする

システムをシャットダウンするには、以下の手順に従ってください。

1. すべての負荷装置を停止します。
2. スタンバイ ボタンを押して、UPSの動作モードを解除します。負荷ソケットへの電源が切断されます。
3. UPSを商用電源から切断します。
4. UPSの内部回路が放電するまで60秒以上待ちます。

詳細については、HPのWebサイトhttp://www.hp.com/products/ups/（英語）を参照してください。